

JSPO財務計画 2023-2027

2023年3月9日

日本スポーツ協会（JSPO）では、2021年3月に「日本スポーツ協会における財務の健全性確保策について」（健全性確保策）を策定しました。この健全性確保策では、「安定的に事業を継続するとともに、社会の変化や人々のニーズを踏まえ、常に新しい価値を創造し続けることが求められる。そのためにも、財政の健全化、財源の安定的な確保に計画的に取り組む必要がある。」と謳っています。

しかしながら、現状のJSPOの財務状況を省みますと、スポーツ・インテグリティの強化に係る経費、事業数の増に伴う人件費、物価高騰による各経費の増など、事業費全体の増加が見込まれ、現時点で資金不足に陥る状況ではありませんが、必ずしも楽観視できない状況にあります。

このような状況の中、JSPOでは今後5年間を見据えた「JSPO中期計画2023-2027（中期計画）」を策定しました。「スポーツと、望む未来へ。」のコーポレートメッセージのもと、社会課題の解決に向けた重点項目と各事業における成果目標を設定することで、ミッション・ビジョン2027・バリューの実現に取り組もうとしています。

本財務計画は中期計画の実現のため、限られた経営資源を有効活用し、財源の確保、収益力の強化およびコスト意識の徹底を図り、計画的・効果的に予算を執行することで財務の健全性を維持するために策定しています。

- 1. 財務計画ハイライト**
- 2. 主要な経営指標**
- 3. 財務の健全性を確保する施策**
- 4. 財務計画策定後の取り組み事項**

1. 財務計画ハイライト

1. 財務計画ハイライト

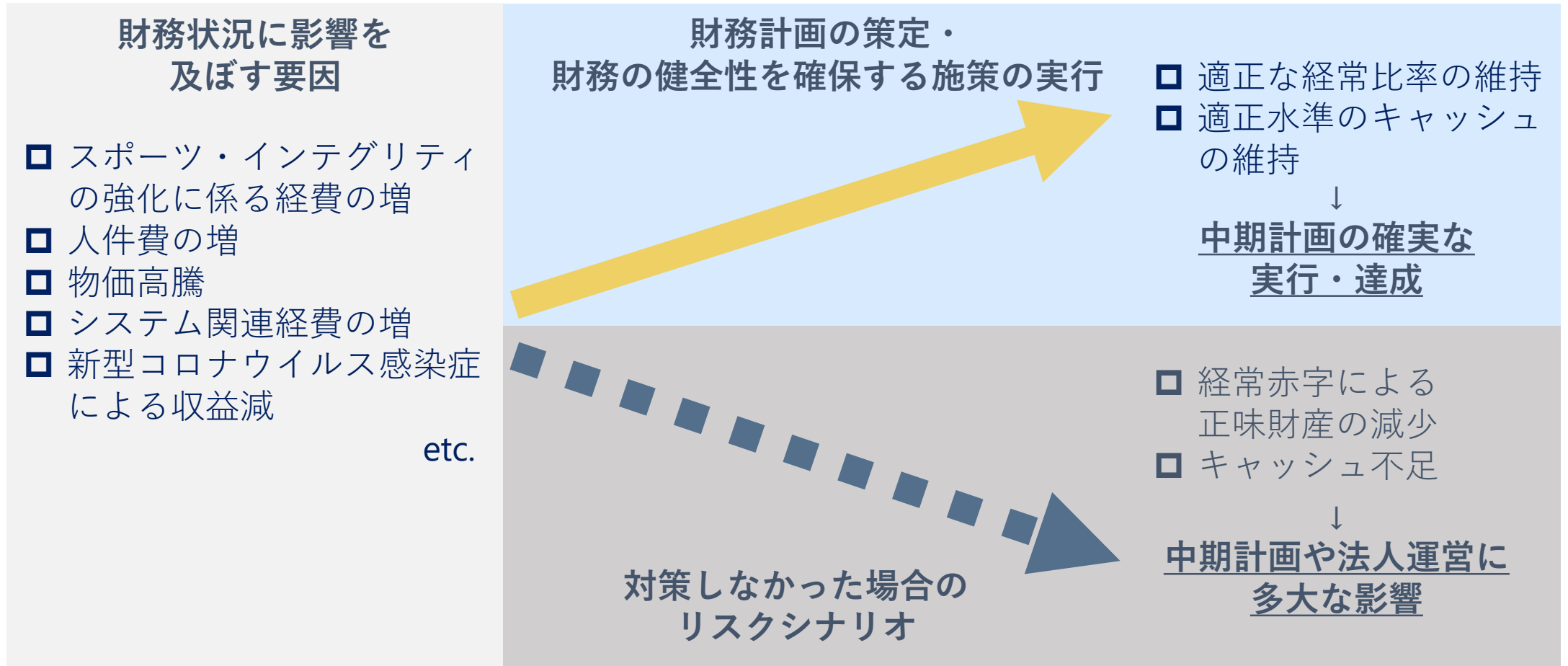
□ 適正な経常比率の維持

- 2020年度以降、収益面では、新型コロナウイルス感染症拡大によりスポーツ少年団登録料や事業収益が減少し、費用面では、スポーツ・インテグリティの強化に係る経費、人件費、物価高騰による値上げおよびシステム関連経費など、事業費全体が増加しており、経常比率が低下傾向にある。
- 2023年度からは、経営資源有効活用のための事業優先度判断により、ミッション・ビジョン2027・バリューとの整合性、事業の有効性、収益性を評価し、効果的な資金の配分を行う。
- 参加料や登録料の見直し、協賛金の増などの方策による収入の増、コスト意識の徹底による支出の減を図ることで、適正な経常比率の維持に努める。

□ キャッシュフローのマネジメント

- キャッシュフローを管理し、中期計画の重点項目実現のために適切な投資を行う。

注) 経常比率 = 経常収益 / 経常費用



2. 主要な経営指標

2. 主要な経営指標

□ 経常比率

- 経常外の事由を除いた収益と費用の比率。財務の安定性を判断する指標。

□ 正味財産比率

- 資産の合計額から負債の合計額を引いた正味財産の割合。民間企業における自己資本比率に相当。財務基盤を判断する指標。

□ 流動比率

- 1年以内に現金化できる資産と1年以内に支払わなければならない負債の割合。比率が高いほど返済能力があり、財務の健全性を判断する指標。

□ キャッシュフロー

- キャッシュ（現金や預金）の流れ（フロー）。資金繰りを判断する指標。

□ 人件費比率

- 経常費用に対する人件費比率。人件費の規模を判断する指標。

2. 主要な経営指標

□ 経常比率

- 2027年度までに経常比率100%（減価償却費を除く。実質90%）にする。

【年度別目標値（減価償却費を除く数値：ex Dep）】

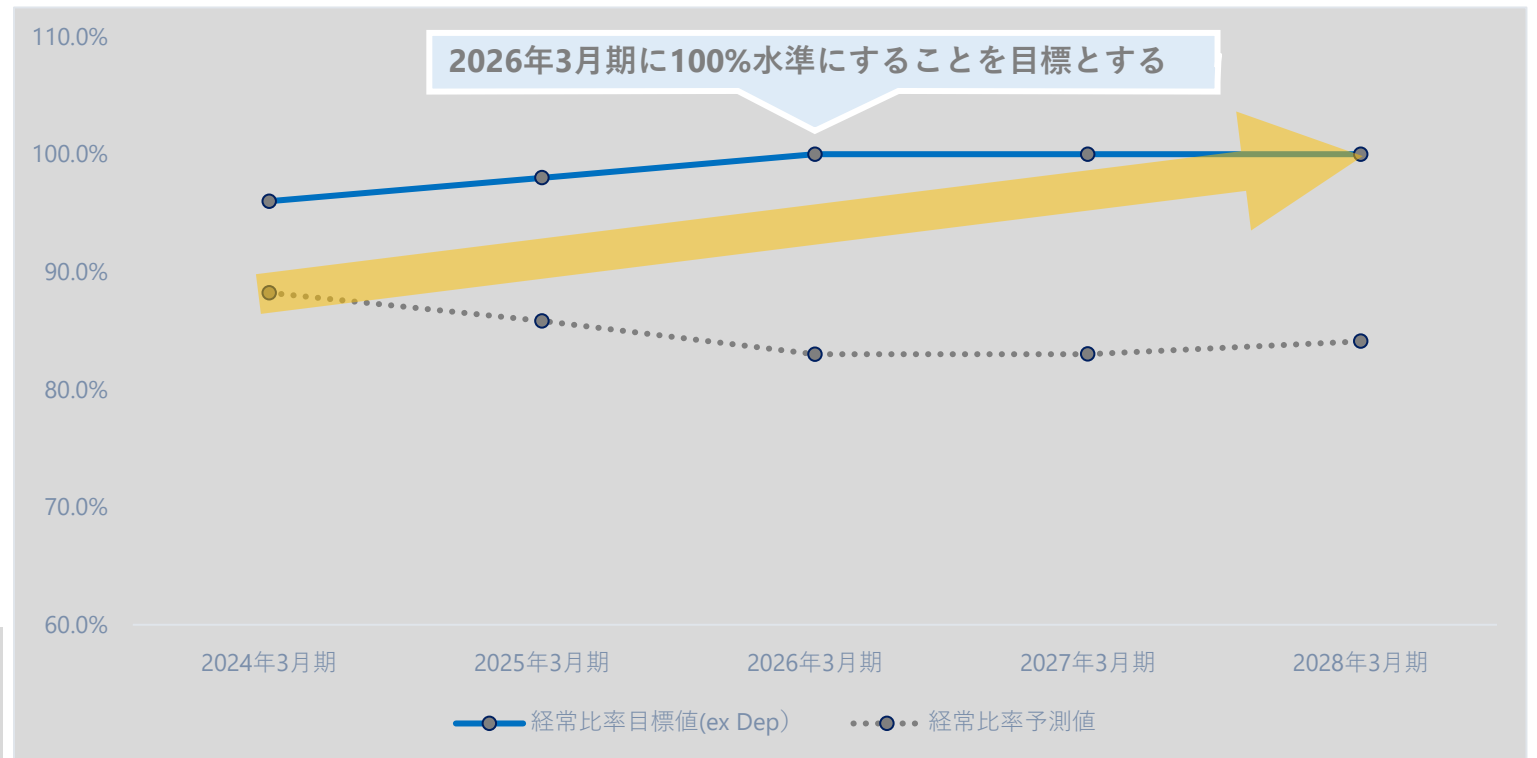
2023年度：96%

2024年度：98%

2025年度：100%

2026年度：100%

2027年度：100%

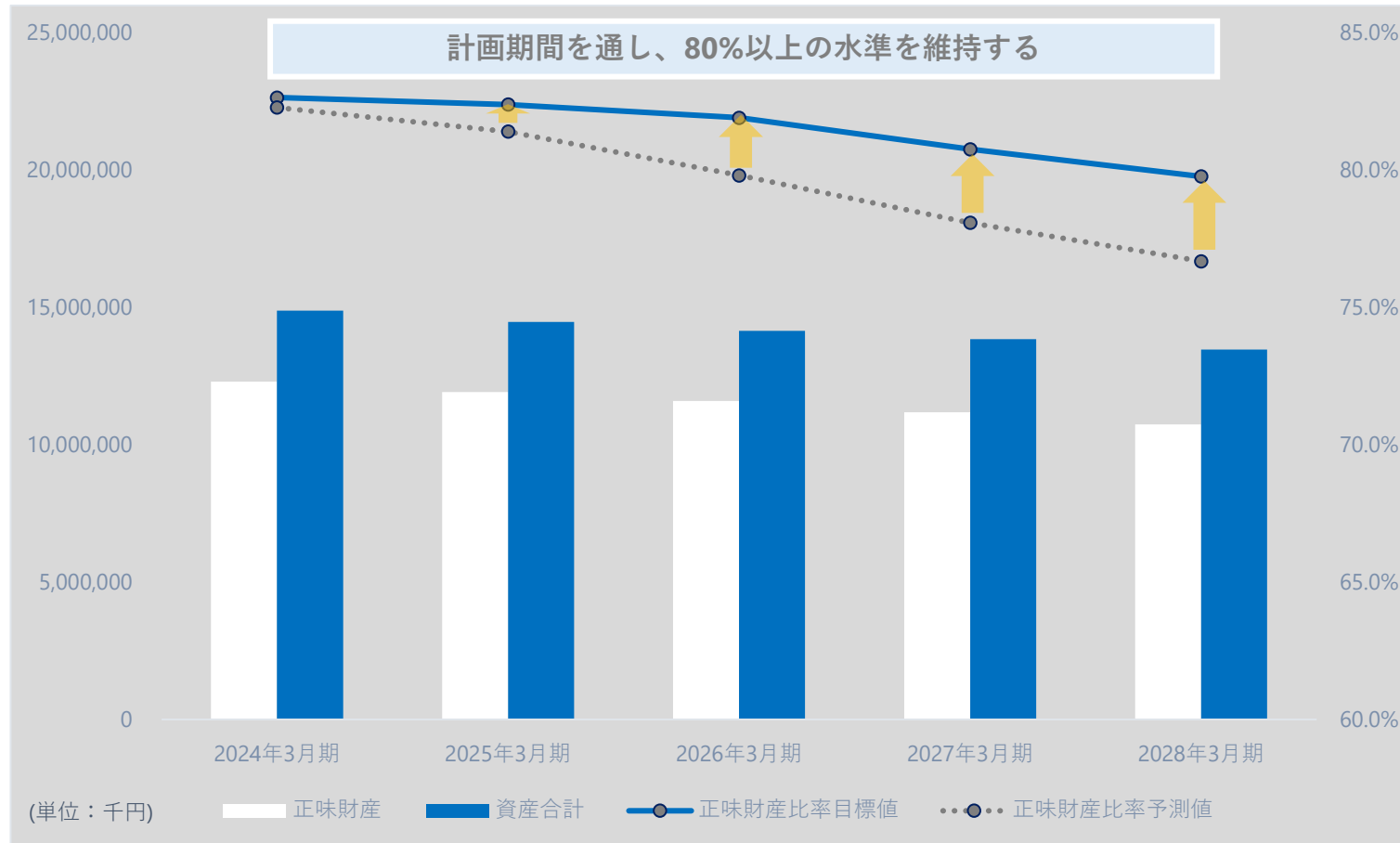


注)
 予測値：各事業の収入、費用の予算見込を積み上げた数値
 目標値：各指標の改善を目的とした目標設定値

2. 主要な経営指標

□ 正味財産比率

➤ 80%以上を維持する。

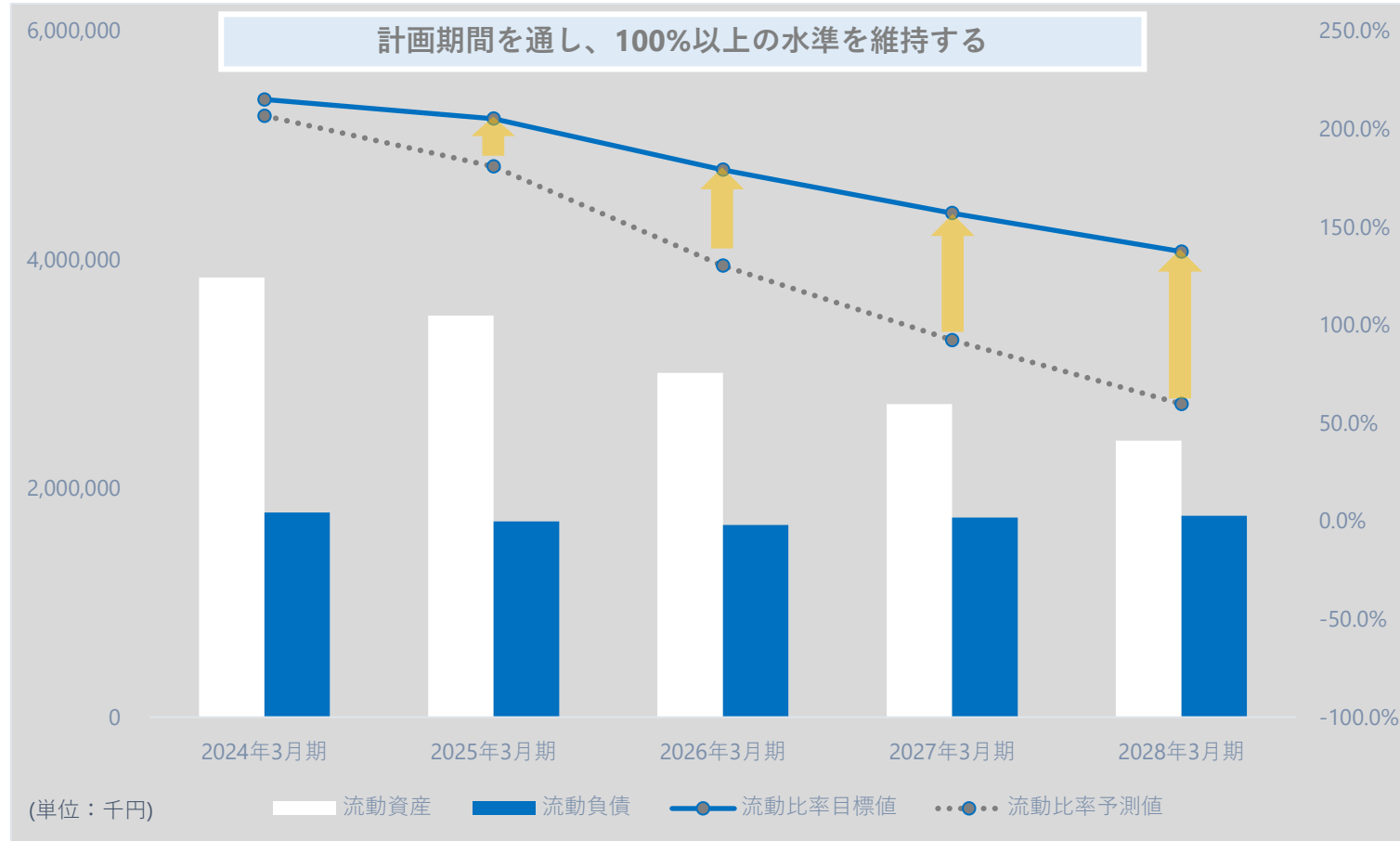


注)
 予測値：各事業の収入、費用の予算見込を積み上げた数値
 目標値：各指標の改善を目的とした目標設定値

2. 主要な経営指標

□ 流動比率

➤ 100%以上を維持する。

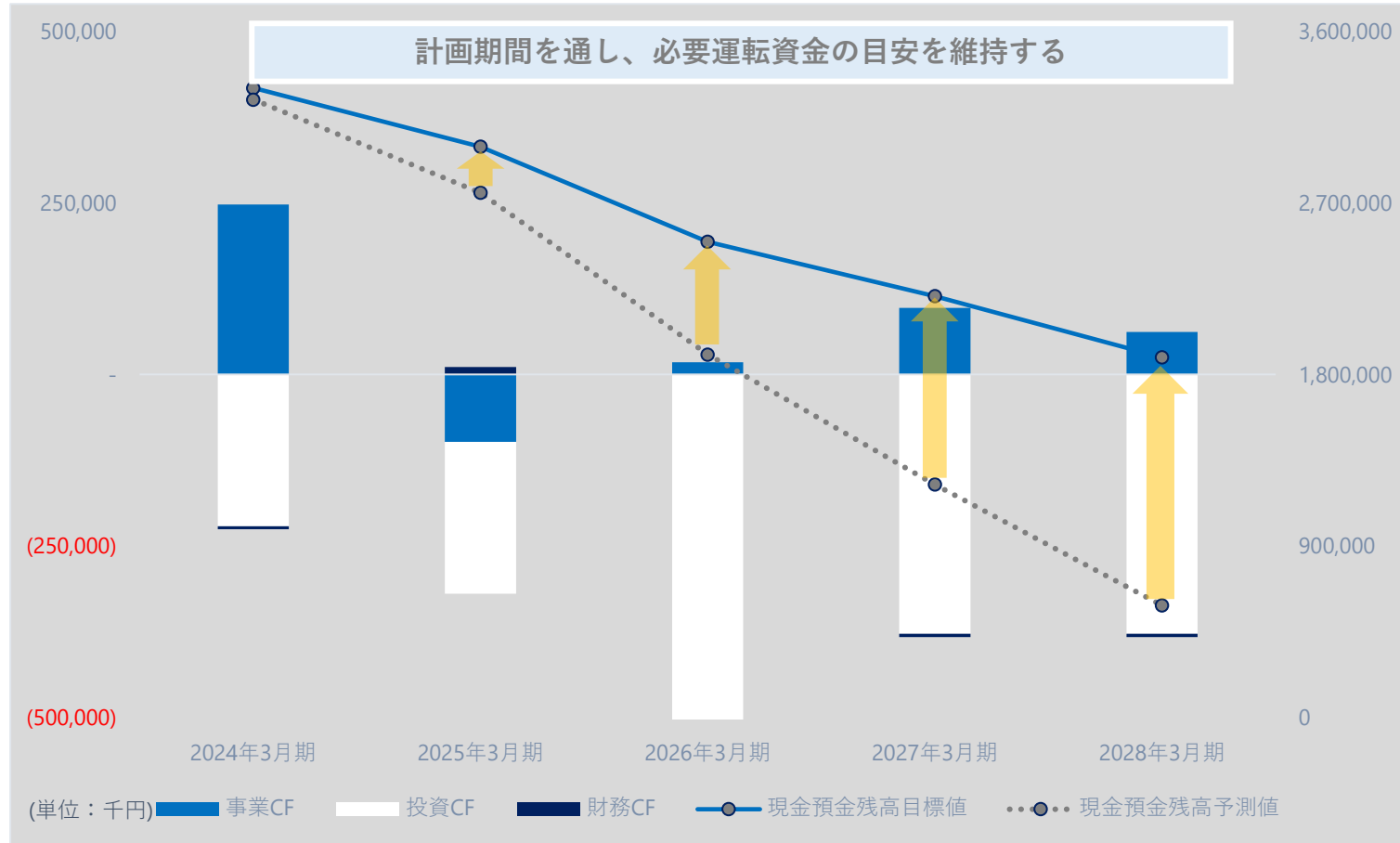


注)
 予測値：各事業の収入、費用の予算見込を積み上げた数値
 目標値：各指標の改善を目的とした目標設定値

2. 主要な経営指標

□ キャッシュフロー

➤ 目標：現預金残高18億円（運転資金の目安：年間収入の2分の1）を維持する。

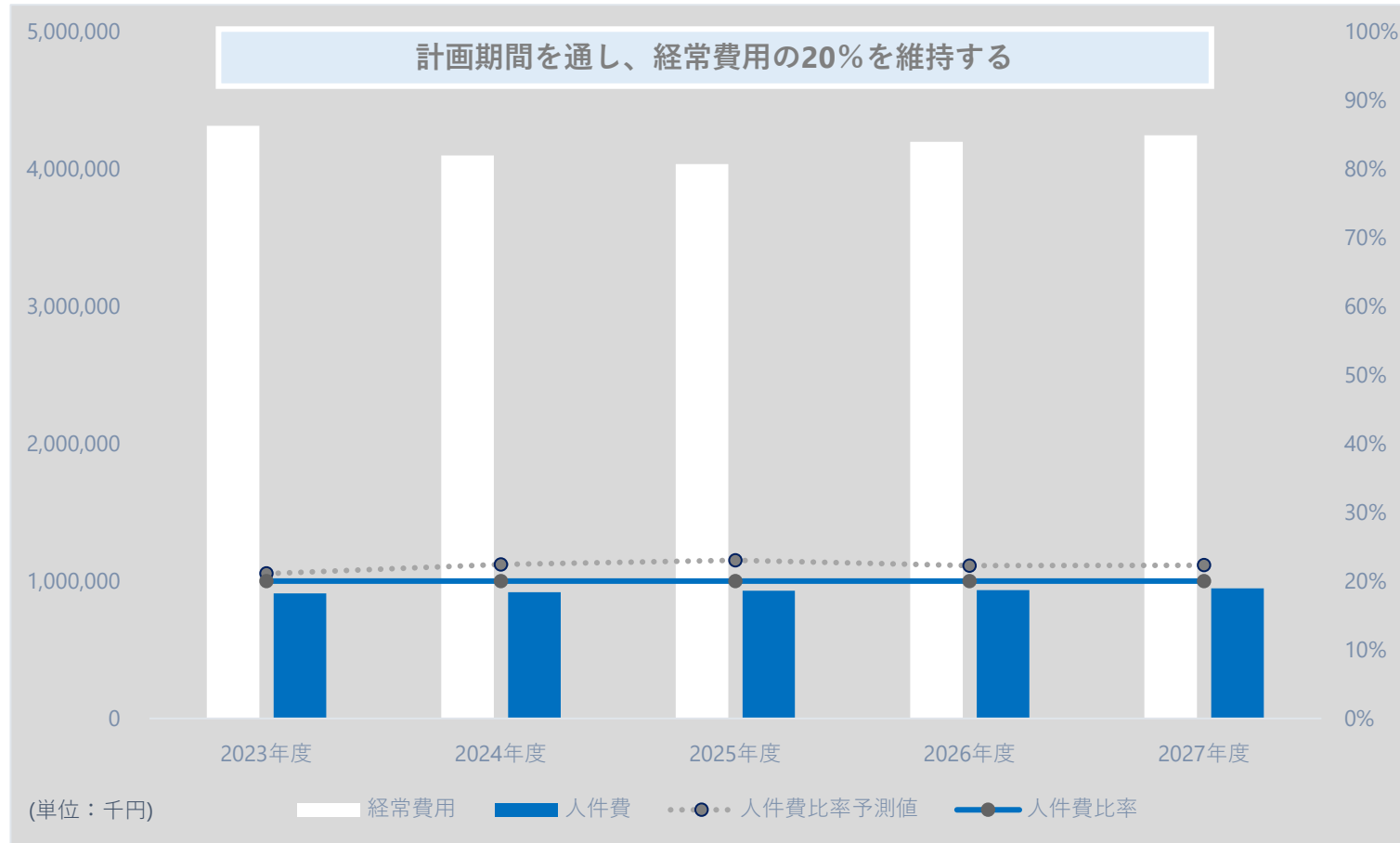


注)
 予測値：各事業の収入、費用の予算見込を積み上げた数値
 目標値：各指標の改善を目的とした目標設定値

2. 主要な経営指標

□ 人件費比率

➤ 目標：経常費用に対して、20%を維持する。



注)
 予測値：各事業の収入、費用の予算見込を積み上げた数値
 目標値：各指標の改善を目的とした目標設定値

3. 財務の健全性を確保する施策

3. 財務の健全性を確保する施策

以下の事項に取り組むことにより適正な経常比率の維持を目指し、財務の健全性を確保する。

経営資源の効果的な配分と事業の見直し

- 限られた経営資源（ヒト、モノ、カネ）を有効活用し、最大の成果を創出する。そのために、1年ごとに各事業を評価し、ミッション・ビジョン2027・バリューとの整合性、有効性、収益性を評価し、事業優先度の判断をするとともに、優先度に基づいた効果的な経営資源の配分を行う。

収入増による財源の確保

- パートナー企業の充実を図る。
- 補助金・寄付金のさらなる獲得を図る。
- 各事業を安定的・継続的に実施するために参加料と登録料の見直しを行う。
- 新たな財源確保に向けて取り組む。

コスト削減による支出の減

- 効果的・効率的な事業の実施方法を模索し、必要経費の精査を行う。
- 業務プロセスの効率化などを図ることでコスト削減につなげる。

4. 財務計画策定後の取り組み事項

4. 財務計画策定後の取り組み事項

- 「中期計画2023-2027」 実行に向けた投資を計画的に行う。
 - 投資によるリターン（成果）を明確にした上で実行する。
- 「中期計画2023-2027」 計画達成時の財務状況予測を行う。
 - 財務状況予測については、事業ごとの成果が明確になるよう、細分化する。
- 目標値は、年度毎の実績などを反映し更新する。
 - 目標値は、年度毎の決算額、各事業のアクションプランに基づく収益および費用の予測値を反映し、更新する。

注) 本財務計画は、「中期計画2023-2027」で定める成果目標達成時に財務状況に与える影響については反映していません。